

日本CLIL教育学会第1回大会 シンポジウム2
多言語多文化文脈に対応するCLIL 教育—
英語、中国語、日本語、韓国語教育を背景として

CLIL を通して異文化間能力の育成

荊 紅濤

創価大学学士課程教育機構

2018年7月14日

背景

- CLILの文化的側面は、Byram(1997)の異文化コミュニケーション能力の定義(態度、知識、技能、批判的な文化意識)に関連する。
- Byram et al., 2016: CLILと異文化間市民教育

目的

- このケーススタディでは、CLILと異文化間能力の理論に基づいて、日本の大学におけるCLIL授業（科目：言語と異文化間コミュニケーション）を通して異文化能力の育成を探究することである。

授業概要

- 本科目は、言語と異文化間コミュニケーションへの入門授業です。
- 授業内容は異文化コミュニケーションの基礎な概念と理論を検討します：文化、コミュニケーション、非言語コミュニケーション、アイデンティティ、自文化中心主義、異文化間移動、対人関係、職場での異文化コミュニケーション、グローバル市民性と異文化間コミュニケーション能力などです。
- 授業は英語で行います。

授業内容

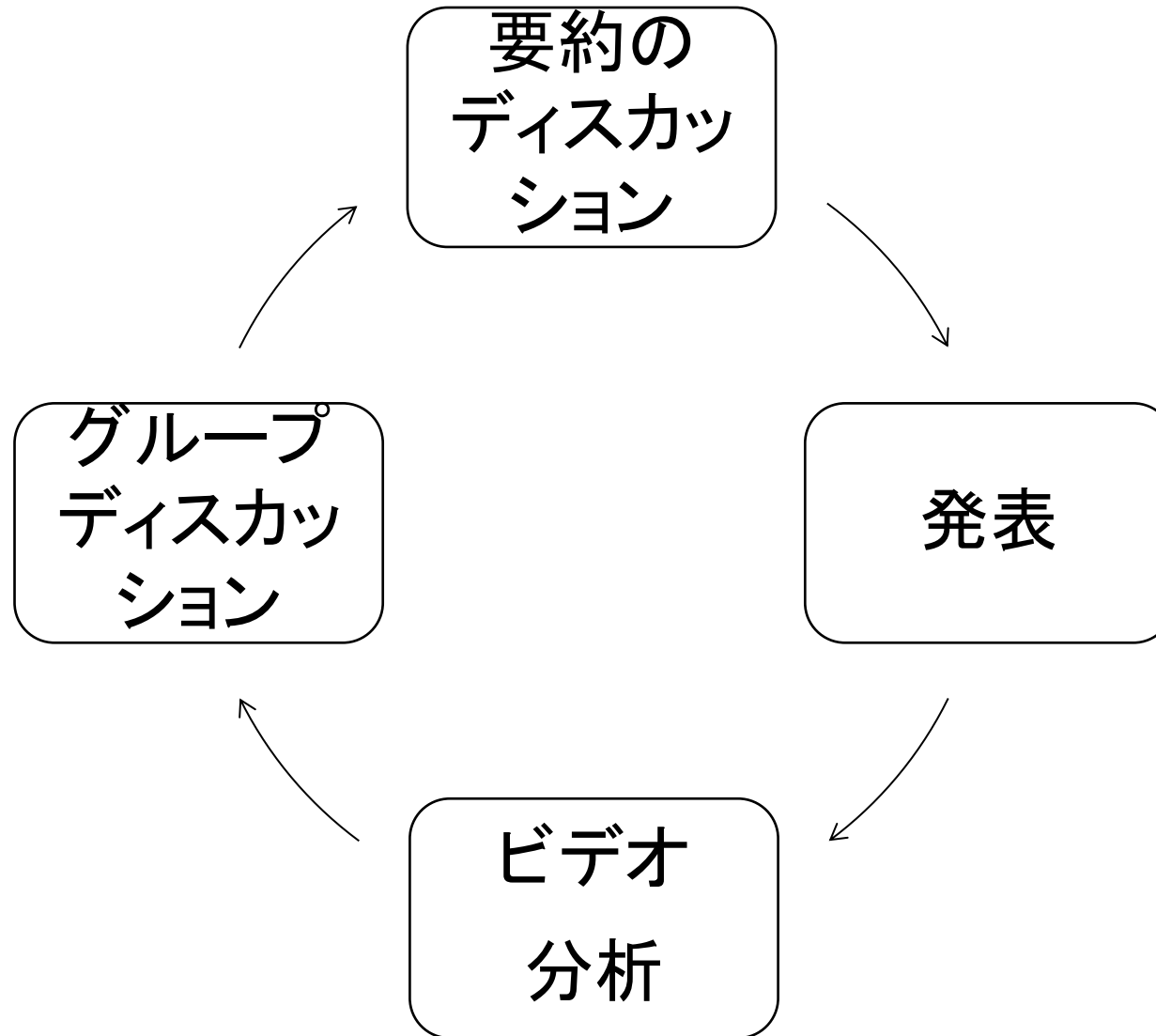
授業活動

- 講義、読解
- ビデオ
- グループディスカッション
- ライティング
- プレゼンテーション
- 異文化コミュニケーションセンターの活動
- オンライン異文化交流プロジェクト

教科書

Jackson, J. (2014).
*Introducing language and
intercultural communication.*
Abingdon, UK: Routledge.

授業活動



CCDL 協定校とグループディスカッション話題

A University(Japan)  B University (Korea)

(From May 9 to June 10, 2016)

- ✓ Characteristic features of **yourself and your country**
- ✓ The meaning of the **names**
- ✓ Popular **sports**
- ✓ Define standard **English** and non-standard English
- ✓ What are the advantages of speaking **more than one language?**

考察1：4つのC

- Content(内容): 異文化コミュニケーションの科目
- Communication(言語): 英語はEMIとして使用され, 4 skills
- Cognition(思考): 批判的な意識
- Culture・Community (文化): 協働学習や地球市民意識

(渡辺, 池田, & 和泉, 2011)

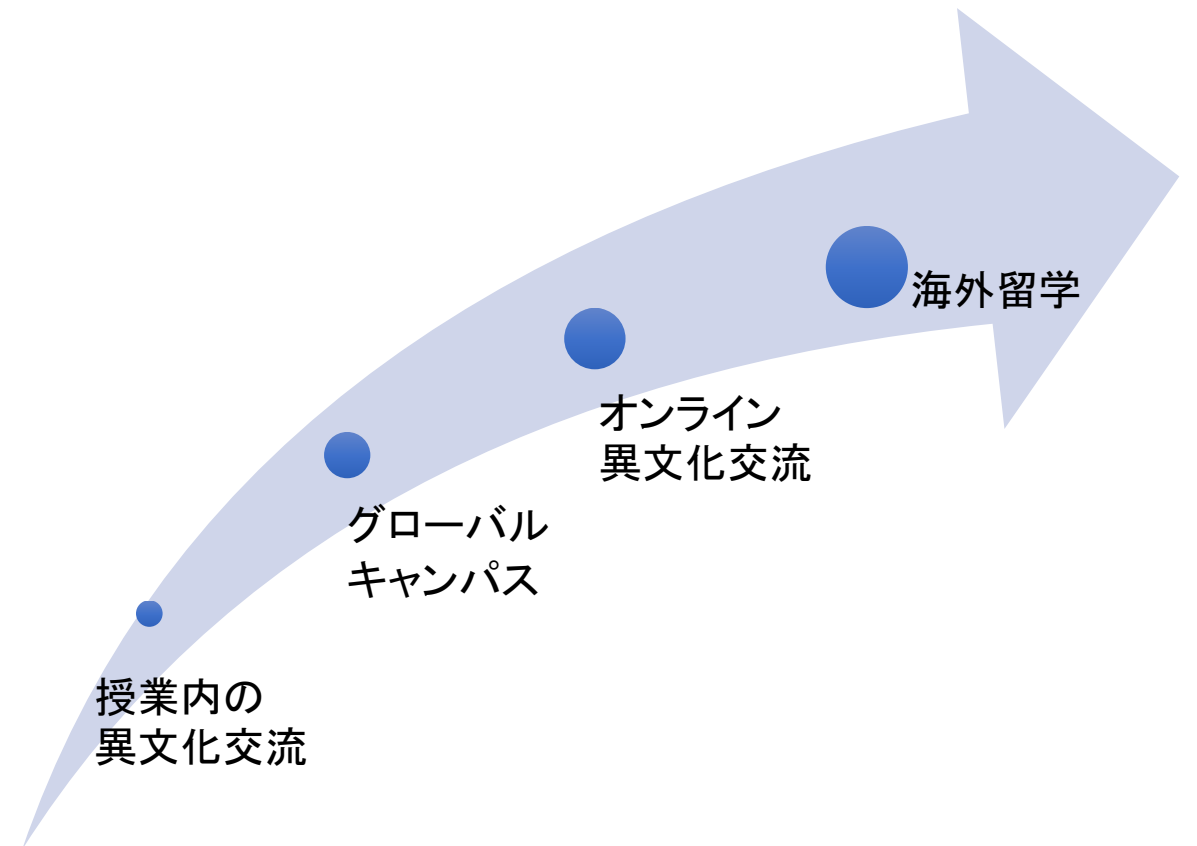
考察2： CLILとグローバルコミュニティの形成

- 授業内：

日本人学生と留学生の交流

- 授業外：

- キャンパス内の異文化交流活動：
異文化コミュニケーションセンター
- 日本の大学生は韓国の大学生とのオンライン異文化交流プロジェクト



まとめ

- CLILは批判的な意識、及びグローバルコミュニティの形成に貢献する可能性を示している。
- 本研究はCLIL と異文化間能力の授業のカリキュラム設計に役に立つと考えられる。

参考文献

- Byram, M. (1997). *Teaching and assessing intercultural communicative competence*. Clevedon, UK: Multilingual Matters.
- Byram, M., Golubeva, I. Han, H. & Wagner, M. (2016). *From Principles to Practice in Education for Intercultural Citizenship*. Bristol: Multilingual Matters.
- 渡部良典, 池田真, & 和泉伸一 (2011). *CLIL内容言語統合型学習 上智大学外国語教育の新たなる挑戦 第1巻 原理と方法*, 東京: 上智大学出版.

ご静聴有難うございました

荊 紅涛

jing@soka.ac.jp